

報告

# 維新百年記念公園シンボルマークの制作

## Creation of the Symbol Mark for the ISHIN100 Memorial Park

小橋 圭介

Keisuke Kohashi

The "ISHIN100 Memorial Park," which creates multi-generational exchange through sports and cultural activities, will celebrate its 50th anniversary in November 2023. In this milestone year, there were calls within the organization for a renewal of the "symbol mark," including in terms of external appeal. This paper reports on the production process of the "ISHIN100 Memorial Park Symbol Mark," which was undertaken as a commissioned research project.

### 1. 背景

スポーツや文化活動を通して多世代交流を創出している「維新百年記念公園」は、2023年11月に開園50周年を迎えた。節目の年にあたり、体外アピールの面も含めて「シンボルマーク」刷新の声が組織内からあがった。そこで、維新百年記念公園指定管理者(一財)山口県施設管理財団のサービス課主任である山下 隆志氏から筆者に制作依頼があったのが本研究の契機である。本稿では、受託研究として取り組んだ「維新百年記念公園シンボルマーク」の制作過程について報告する。

### 2. 維新百年記念公園について

山口県内屈指のスポーツ施設を擁する都市公園として、また、幅広い世代が健康づくりや文化活動を楽しめる憩いの空間として、1973年に開園した。同園は「みんなの公園」として、より親しまれるよう以下の「キャッチフレーズ」と「3つの基本コンセプト」を掲げている。

キャッチフレーズ：

“元気・感動・安らぎの夢空間”～誰もが思い思いの目的で訪れ、明日への活力を感じてもらえる維新公園～

基本コンセプト：

- ① 「スポーツ元気県やまぐち」実現の中核的施設  
スポーツを自らす「喜び」、アスリートの熱い戦いの「感動」を共有できる、スポーツの中核

的施設として、高い水準の競技環境の維持・向上を図ります。

- ② 幅広い世代が楽しめる「安らぎの空間」

子どもから高齢者まで幅広い世代が、花や樹木、野鳥など自然豊かな癒やしの空間で、スポーツ、レクリエーション、健康づくり、文化活動ができる憩いの場として、安全で快適な公園を目指します。

- ③ 「地域の元気と賑わい」を創出する舞台

ゆめ花博で発揮されたボランティア活動の新たな活躍の場として、また、交流人口の拡大や賑わいの創出の舞台として、地域との協働による公園づくりを進めます。

### 3. 目的

今まで以上に山口県民及び県外に対しても公園の存在を認知してもらうため、「維新百年記念公園」のアイデンティティの視覚化を図る。

### 4. 実施スケジュール

10月～ ：デザイン案の作成

11月下旬：デザイン提案

12月下旬：提案を踏まえてデザインを適宜修正

～1月 ：デザインの決定

### 5. 実施概要

私たちは、日々の生活の中で意識・無意識を問わ

ず、多くのシンボルマークを目にしている。シンボルマークは、ブランドのコンセプトやそこで活動する人間の想いなどを、ワンビジュアルで不特定多数に対して的確に伝えなければいけない極めて重要な役割を担っている。先方の熱意や想いを必要最小限の要素に整理して、視覚的に伝えられるのがシンボルマークであるため、実制作に先立ち、先方との対話が必要不可欠となる。山下氏と打ち合わせをする中で、先方が求めているものを抽出していった。

現状の公園は、客観的に見た時に「スポーツ施設」としてのイメージが強いようだ。実際に「維新みらいスタジアム」や「ラグビー・サッカー場」など多くの施設があるため、当然といえば当然である。しかし、同組織は、スポーツ施設と同じくらい「野外音楽堂」や「維新大晃アリーナ」などの文化施設、そして何よりも公園内を彩る四季を通じて植生する木々や花々にも力を入れており、その魅力をもっと押し出していきたいという強い想いがあった。

そこで、デザインコンセプトを「スポーツ施設+自然と調和した公園」とし、シンボルマークの制作に着手した(図1-1~8)。以下、各シンボルマークの制作意図である。

案1：

公園を彩る「花」、公園に集う「人」を象徴的に視覚化し、組み合わせて一つのマークにしている。シンボルマークとしての視認性にも配慮している。

案2：

円弧で表現した造形は公園で運動する人を表し、その周囲に草花など公園の景観を表すモチーフを配置している。全体を「円」で囲むことで、公園に関わるすべての要素が調和していることを表現している。

案3：

自然と人が共存している様を視覚化している。2つのモチーフを同一の造形を基本に制作することで、対等の関係性であることを表している。グラウンドの形で囲むことで維新公園の「らしさ」も視覚化している。

案4：

公園を彩る「木々」、公園に集う「人」を象徴的

に視覚化し、組み合わせて一つのマークにしている。維新公園の「維」の造形を模している点もポイントである。

案5：

自然と人が共存している様を視覚化している。「一筆書き」のような表現を用いることで、2つのモチーフが対等の関係性であることを表している。

案6：

公園を彩る木々の様子を抽象化して表現している。遠近感を意識した奥行きのある配置にすることで、公園のゆったりとした「空間」を演出している。

案7：

維新公園内にあるモニュメント「子供の四季」から着想を得て視覚化している。「躍動美の中に子供の夢と希望があふれている」という思想は、今後の公園のあり方を考える上でも非常に重要である。

案8：

維新公園内にあるモニュメント「記念塔」から着想を得て視覚化している。開園と同時に建立されており、維新公園の象徴と言っても過言ではないため、シンボルマークに採用した。

シンボルマークの難しい点は、取り扱う際の汎用性の高さである。大きさや色彩の有無など、伝わりやすいコミュニケーションツールとして、あらゆる媒体で確実に機能していくかを考慮しなければならない。本研究では、おそらく最小使用サイズになるであろう「名刺」を使用例として企画書に盛り込んだ(図2)。

シンボルマークだけではなく、あわせて「ロゴタイプ」も提案した。現在、公園を表記する特定のロゴタイプは存在していない。可読性を意識したゴシック体を基本に、これからの公園の更なる飛躍を願い、直線・曲線といった幾何学的な造形で未来感を演出した。角を丸くすることで、温かみや親しみやすさも感じられるようにしている(図2)。

## 6. 提案・選出

完成したシンボルマーク全8案及びロゴタイプ1案を、山下氏にプレゼンテーションした。制作者側

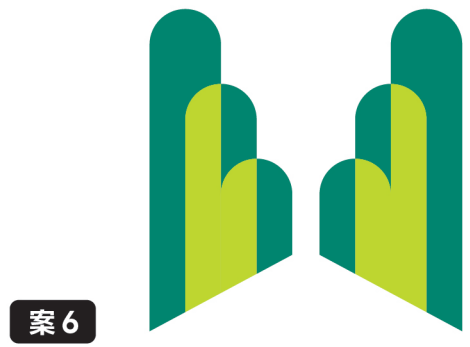


図1-1~8 シンボルマーク案



使用イメージ(名刺)

公園を彩る「木々」、公園に集う「人」を象徴的に視覚化し、組み合わせてひとつのマークにしている。維新公園の「維」の造形を模している点もポイントである。

図2 企画書(一部)

の意向を理解していただいたうえで、後は持ち帰って職員間で意見集約や投票を通して選考していただく流れとなった(図3-1,2)。



図3-1 シンボルマーク選考風景1



図3-2 シンボルマーク選考風景2

経過としては「案1」と「案4」が最終候補として残り、検討の結果「案4」が選出された。

## 7. まとめ及び今後の検討課題

今後は選出された「案4」の微調整を行い、デザインを確定させる。特に色彩面においては、明度・彩度を変更しつつ検証を重ねて精度を上げていく。シンボルマークは、2024年2月18日(日)開催予定の「維新百年記念公園50周年記念セレモニー」において公表を計画している。

本研究において維新百年記念公園の「シンボルマーク」を制作したが、本研究以前に既にシンボルマーク自体は存在している(図4)。

開園の頃に制作されたと思われ、職員の着用しているジャージなどにも使用されている。しかし、圧倒的に登場頻度が少ない。同園ホームページや広報誌、職員の名刺など、どこにもシンボルマークは表記されていないのが現状であり、これは極めて大きな課題である。先に触れた通り、「シンボルマー



図4 現シンボルマーク

ク」はそのワンビジュアルでブランドを認識してもらう必要がある。「これとえばこれ」と一般大衆に浸透するように、維新百年記念公園の活動と寄り添うことでシンボルマークは育っていく。つまり、シンボルマークは制作することよりも、制作後の方が重要と言える。

本研究によって制作されたシンボルマークが、この先何十年と維新百年記念公園と共に成長し、更なる飛躍の一助となることを心より願っている。